

ウッディチキン静岡支部

一燈園・中江藤樹記念館研修バスツアー

2008.4.20〔mon〕 - 4.21〔tue〕



4.20〔mon〕 1日目

一燈園見学



一燈園生活研究所 村田正喜氏 ご講話

- 一燈園には『行願』という修行がある。まったく知らない町、まったく知らない家に行き、「お便所を掃除させてください」とお願いする。断られても断られてもお願いする。そして一軒のお家の掃除をさせていただけたとき、「させていただけるありがたさ」を学ぶ。
- 一軒一軒へ丁寧に謙虚に真心を込めてお願いする。そして丁寧な言葉と丁寧な態度を身につけていく。これが無心になるための行。
- ここ一燈園にあるものはすべてお預かり物である。一燈園は『無一物』である。ひとりひとつのお弁当箱だけが唯一の持ち物。家は寝起きする場所ではない。住まいは路頭にある。
- 松下幸之助氏が『素直』という言葉大切にされていた。この『素直』が難しい。現在、人間関係がややこしくなっている。人間関係は挨拶から始まり挨拶で終わる。この挨拶が無心であるかどうか。無心=素直な心である。



- 日本の美しい言葉のほとんどが挨拶である。「おはようございます」「ありがとうございます」「ご苦労さまでした」などなど。「はい」という返事も大切な挨拶。挨拶は死ぬまで付き纏う。
- 挨拶の訓練をする。現在、挨拶を教えてくれるところが少なくなっている。昔は家族の中で挨拶を訓練された。駅では車掌さんが切符を切りながら「行ってらっしゃい」「おはようございます」という挨拶があった。
- 腹を立てている人や、人をバカにしている人はいい挨拶ができない。
- 挨拶がないということは、人間関係がないということ。
- かつて日本は礼儀正しい民族であった。知らない人でも大切にしていた。半世紀前に戻って礼を学び、尊敬する心を養わなければいけない。
- お釈迦さまの教えに『天上天下唯我独尊』というお言葉がある。これは「ひとりひとりが尊い」という教え。
- 絶えず無心に帰り、自分の中に問う。「この世でどのような花を咲かせるのか」「人はどのような花を咲かせればよいのか」自分には自分だけの役割がある。
- この身も、身につけた技術も、すべて預かり物。呼吸もさせていただいている。自分がしているのではない。預かったものをどのように使うのか。預かったこの体、この命をどのように役立てるのか。
- 一燈園生活とは無になる修行である。



4.21〔 tue 〕 2日目



中江藤樹記念館・藤樹書院拝観



館員の方よりご講義

- 知識と行いをひとつにすることを『知行合一』という。そして『知行合一』とは『陰徳』でなければならない。『陰徳』とは人の見ていないところでもできる善い行い。逆に『陽徳』とは人の見ている前でしかできない善い行い。



ありがとうございました。